

令和3年度 第3回 志摩市総合教育会議 議事録 (概要)

- 1 日 時 令和3年10月13日(水) 13:30~14:30
- 2 場 所 志摩市役所4階 401会議室
- 3 出席者 橋爪政吉市長、舟戸宏一教育長、濱口茂之教育長職務代理者、森かお子教育委員、山下行重教育委員、森本由加教育委員  
(事務局) 箕浦政策推進部長、井上総合政策課長、米奥主査  
伊藤教育部長、柴原教育総務課長、澤田学校教育課長、金光学校教育課副参事、田畑総合教育センター長
- 4 議 題 ・いじめ防止対策・不登校対策に係る現状と課題について

事務局	<p>皆さんこんにちは。本日は、総合教育会議開催にあたりまして、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。事務局の総合政策課の井上と申します。よろしくお願ひいたします。座って進めさせていただきます。</p> <p>会議を始める前に、本日の資料の確認をお願いしたいと思います。</p> <p><b>【資料確認】</b></p> <p>それでは本日の総合教育会議につきましては、志摩市総合教育会議設置要綱第6条の規定によりまして、公開で開催する状況になっております。なお、現時点では傍聴者はありません。</p> <p>本日の進行は、お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。それではここからの会議の進行につきましては、同要綱第4条第3項により、議長である市長をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
市長	<p>はい。それではですね、ただいまから令和3年度第3回志摩市総合教育会議を開催させていただきます。最初に私から一言ご挨拶させていただきます。</p> <p>教育委員会の皆様におかれましては、大変お忙しい中、志摩市総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。昨今は教育現場においても、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、子どもたちへの教育の推進にご尽力いただいておりますこと、改めてこの場を持ちまして、お礼を</p>

	<p>申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>先の補正予算でも措置させていただきましたが、学校における子どもたちの感染症対策が大変大切だと思っております。12歳以下のお子さんのワクチン接種がまだ国では認められていないということで、8月、9月に関しては、学校での感染や塾での感染、クラブ活動での感染など、様々な感染事例が全国で報告をされていることを聞いています。そんな中で、教育長にご相談しまして、学校での感染を何とか食い止めようと対策を講じました。それともう1点、子どもたちの感染症対策の習慣づけについて、例えば掃除の一環として消毒とか、そういったことを織りまぜていくことをやっていきたいという思いを伝えさせていただき、予算化いたしました。教育長には様々な政策を練っていただいて、議会で何とか予算を可決いただいたという現状です。本当にこれから先、体験したことのない時代が来るといふうに感じておりますので、今回の会議においても、様々なご意見いただきたいと思っております。</p> <p>今日の議題は、いじめ防止対策・不登校対策に係る現状と課題ということで設定させていただいております。様々な観点で、皆さんの鋭い視点から、ご意見・ご助言いただければ幸いですと思っております。本日はよろしく願います。</p> <p>それでは、早速、お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。議題1、いじめ防止対策・不登校対策の現状と課題について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料に基づき説明】</p>
市長	<p>ご説明ありがとうございます。ただいまの説明に関しまして皆様から何かご意見はございますでしょうか。はい。願います。</p>
教育委員	<p>先ほど、学校でのいじめ防止対策の実践事例として、文岡中学校のレジリエンス教育の取組をくわしく説明していただきましたが、取組後のアンケートを読ませていただくと、子どもたちが元気になっている様子が見えてきます。レジリエンスを高め、育てる教育は、いじめ防止・不登校対策だけではなく、変化が激しく先行き不透明と言われる時代を生きる子どもたちに生き抜く力を育む教育であると言われております。そんな、レジリエンスの取組を市内のすべての幼・小・中学校に広げて欲しいところです。しかし、コロナ禍のため、自校や校区内での取組は進んでいるものの、市内の先生方を集めての研究発表はできないと聞いています。また、レジリエンス教</p>

	<p>育の県の指定事業は、今年度で終わると聞いています。</p> <p>子どもの心を成長させ、生涯にわたって子どもの心を守るレジリエンスは、学習やトレーニングで鍛えられ高められていくものです。来年度以降も継続して専門的な取組ができるよう支援していただくとともに、他校区でも講師の先生を招いたり、子ども一人ひとりに特化した専門的で、実効性ある取組ができるような予算措置も、ぜひよろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その他、ございますか。どうぞ、お願いします。</p>
教育委員	<p>志摩市いじめ防止基本方針の中に、いじめの未然防止のための方策として、「幼少期における心の成長が重要であることから、就学前において、仲間づくりや思いやりの心を育む教育に努め、園児から児童生徒へと豊かな心を持った人づくりが継続的に行えるよう、幼保学校の連携を図る」と記載されています。幼保・学校の連携を図るためには、幼稚園教諭や保育士がいろいろな研修会に参加して、自らの教育や保育を振り返ったり、質の高い教育や保育を学んだりして、研鑽を重ねていくことが、重要であると思います。研修会に参加することで、心を育む知識や技能を高めていき、仲間づくりや、思いやりのある豊かな心を持った人づくりを、日々の教育や生活の場で、一人ひとりの幼児と関わって、指導をしていくことが、幼保学校の連携に繋がると考えます。幼稚園教諭や保育士が幼児理解の研修とか、知識や技能を高めるなどの研修会への、参加についてご配慮いただけますよう、よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>はい。ありがとうございます。その他にご意見ありますか。どうぞお願いします。</p>
教育委員	<p>いじめの問題だけでなく、児童生徒への対応については、教職員の共通理解と指導力の向上を図るために研修を実施したり、保護者との協力体制を構築するためにも、講演会を実施することは大切だと思います。文岡中学校区以外の学校でも、例年実施している教育講演会や出会い学習、あと講師を招いた校内研修が新型コロナウイルス感染防止のため、全校生徒が集まるのではなく、1学年しか聞けなかったり、リモートでの参加のため、講師の先生と十分な意見交換ができなかったり、保護者に向けての講演会も例年と同じようには実施できない状況があるとお聞きしております。</p> <p>また、教職員の研修会が中止になったり、開催されたとしてもリモートや紙面での縮小された形での開催になっているとも聞いております。子ど</p>

	<p>もたちは、意見を言う機会をたくさん重ねることで、表現力が鍛えられていくと思いますし、保護者にも、子どもとの向き合い方や、思春期・反抗期を上手に支え、乗り越える秘けつを学べるような、そんな機会があって欲しいです。</p> <p>そして先生たちにはリモートではなく、直接顔を合わせて、講師の先生に質問したり、授業の中で、子どもたちが自分の考えを発言できる姿を、目の前で見たりした上で、授業研究の質問や意見、感想を述べ技量を高める機会を持ってもらいたいですし、講演や研修により、アンテナを一層高くすることを意識でき、早期発見早期対応にもつなげることができると思います。子どもたちや保護者が講師の先生と顔を合わせて講演が聞けるように、また先生たちが校区や学校単位で講師をお呼びして、少しでも多く、研修が受けられるように、予算措置をお願いしたいと思います。以上です。</p>
市長	<p>はい。ありがとうございます。その他にございますでしょうか。よろしいですか。ちょっと私からも、発言させていただきたいと思います。</p> <p>委員からお話いただきました、レジリエンス教育の今後の考え方を含めてなんですが、教育に対して非常に深いご認識をお持ちの皆さんにご無礼になるかもしれませんが、私は、レジリエンス教育に関しては、しなやかな受けとめ方という1つのキーワードがあると思います。やはり子どもたちの、失敗とかつまずきという部分に関して、受けとめ方で、やっぱりネガティブになったりとか、それを別に気にしない状況になったりと、受けとめ方が、大変大切だと思いますし、多分それが、様々な要因の入口になっていくのではという気がしています。このレジリエンス教育の1つのキーワードのしなやかな受けとめ方という部分が、大きなキーワードに今後なるのではないかという気がしています。確かにたった1年で物事が浸透するというのはまずありえないと思っていますし、正直、非常に大切な教育の手法だと感じています。三重県の事業ということもありますが、今後、何かしらの形で引き続き実行していくことが大切だと感じていますので、前向きにこの辺りは、教育長ともご相談させていただきながら進めていければと思います。</p> <p>委員からお話をいただきました、2つ目の、幼少期における今後の成長の大切さという部分ですが、2か月ほど前に、三重大学の伊藤学長にお会いしました。その際に、「社会を運営している社会人の方々は、どういった学生を大学に育てたいのか」と聞かれたのです。三重大学の学長さんから、すごく難しい質問をされました。皆さんがお話いただいているように、「生きる力がある学生さんが志摩市に来ていただければ非常にありがた</p>

	<p>い」というお話は少しさせていただきました。そんな中で、大学へ行くまでの間の人格形成の中で、大切な幼少期における心の成長というのは、大変大事だと思っていますので、研修会等も含めて、成果がわかるようなことも行いたいと思っていますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>あと、委員にお話をいただいた教育講演会の話ですが、先ほど冒頭のご挨拶でもお話ししましたが、リモートの関係の予算措置をさせていただいたところ。リモート授業については、教育長からは「対面に勝るものはない」と、私にご教授いただきまして、「間違いないですね」とお話をしたところ。まさに委員からお話いただいたその「対面に勝るものはない」ということはしっかりと把握し、私も理解していますので、できる限り、そういったことが実行できるように、これから我々大人は本当に考えなければいけないことかなと思っています。このコロナ禍で、当たり前だったことがなかなか当たり前できないというのが現状であると思っていますので、そのあたりはしっかりと心して、令和4年度に予算を措置させていただければと思いますので、よろしくをお願いします。はい。教育長どうぞ。</p>
教育長	<p>いじめ対策は、教育委員会の大きな柱になっておりますので、今、取組の話がありましたように、いろいろな条件整備をしながら引き続きやっていきたいという、そういう決意であります。いじめを無くすという発想も大事ですが、見逃さないという文言があったと思いますので、そこは、学校で共有しながら、困っている子を見逃さないということ、大きなテーマとしながら取り組んでいく、そのことが1つです。あわせて、レジリエンスのお話が出てきましたが、子どもたちの受け止め方を鍛えることによって、減らしていく。あるいは、大きなことに繋がらないというようなところがあると思いますので、学校と共有しながら、さらにこれを進めていきたいと思っています。</p>
市長	<p>はい。よろしくをお願いします。他はよろしいですかね。 それでは、不登校対策についての説明の方、お願いいたします。</p>
事務局	<p><b>【資料に基づき説明】</b></p>
市長	<p>はい。ありがとうございます。ただいまの説明に関しまして皆様から何かご意見ございますでしょうか。よろしくをお願いいたします。</p>
教育委員	<p>不登校に結びつく要因についてですが、テレビを見たり、漫画を読んだり</p>

	<p>ゲームばかりをしていたりして、本当に楽しんでいるように見えても、内面では、自分は駄目な人間だと自信をなくして、そこからどう抜け出せば良いかわからず、将来に希望が持てない、といった子どもたちもいます。不登校の原因が何であるかを問う人も多くいますが、不登校になった原因を、本人自身もわかっていないということもあります。これは私のごく近いところでもあるのですが、本人の気分のいいときに、そういう点を尋ねてみると、「実は自分でも原因がわからん。でも、学校へ行くのが怖いんや」という。「誰か相手があるんじゃないかって、ただ行くこと自体が怖いんや」というようなことで、「自分でもわかりません」と、そういう答えが返ってくるというようなことです。要因を探って、その要因を解消することは必要ではありませんけど、児童生徒が不登校になったときに、行政、学校、保護者がどのように子どもに関わっていくかというようなことが大切であり、また、その要因が解消されたとしても、直ちに子どもたちのエネルギーを取り戻すことができるかという、そう簡単なものではないと思うので、いろんな機関が連携しながら、対応していくことが必要だと思います。そんな中で、また、予算措置を講じなければならないことも出てくるかもわかりませんので、その時にはまたよろしくお願ひしたいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その他、ご意見ございましたらお願いします。</p>
教育委員	<p>不登校の要因や背景が複雑・多様化する中で、学校、家庭、地域が連携協力して、不登校児童生徒の状態や支援のあり方について考えていくことが大切です。そのために、現在1校で取り組んでいるコミュニティスクールの構築を他でも進めていく必要があります。地域と一緒に学校を作っていく学校運営協議会やスクールサポーターを活用することは、先生方を支え、子どもたちを守ることに繋がると思います。一人ひとりが社会的に自立できるように、地域の力を借り、情報提供や意見交換をすることにより、連携を密にし、不登校の子どもたちを優しく見守りながら、不登校対策に取り組んでいかなければならないかと思ひます。以上です。</p>
市長	<p>はい。ありがとうございます。この他によろしいですか。どうぞ。</p>
教育委員	<p>カウンセリングの充実という観点から少しお願ひしたいと思ひます。先日、文部科学省の方から、不登校を経験した小中学生のアンケート結果が公表されました。その中で、誰にも相談しなかったという生徒が、小中ともに40%前後あり、相談体制を充実していくことの必要性を改めて述べてい</p>

	<p>ました。志摩市では、総合教育センターの相談員が、保護者や学校からの相談に対して、不登校に関わるだけでなく、生活面や発達に関する事柄など、様々な事柄に対して効果的に対応してもらっています。また、いじめ問題への対応の課題の中でも、カウンセリングの話題がありましたが、専門家によるカウンセリングは重要な役割を果たしており、総合教育センターでは、毎週火曜日に臨床心理士によるカウンセリングを実施してもらっています。しかし、年々カウンセリングの申込みが増えているということで、先ほどセンター長の方からも説明がありましたが、予定の枠を増やすことで対応してもらっているけど、なかなかその対応に苦慮しているような状況も聞いております。また、申込みをしても、予約を取るのに1ヶ月以上かかってしまうので、「もう少し早くできないか」とか、あるいは「回数を増やして欲しい」といった、保護者や学校の方の切実な声も聞いております。志摩市教育推進計画の中でも、「総合教育センターの機能の充実」ということが謳われておりますが、子どもや保護者への迅速かつ専門的な支援というのは、とても大事なことであり、それを継続していくためには、ふれあい教室指導員や相談員と臨床心理士が日常的に連携を取りながら、できる限り臨床心理士が対応できる時間を増やしていく必要があります。相談体制の充実強化の面からも、臨床心理士の増員についてのご配慮をよろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>はい。ありがとうございます。他にありますか。どうぞ。</p>
教育委員	<p>志摩市には、100人以上の民生委員・児童委員の方々と、11人の主任児童委員の方々がおられ、身近な相談者として活躍されています。民生委員・児童委員の皆さんが、それぞれの地域で、見守りとか、訪問活動によりまして、地域の人とか、子どもたちに関わり、子どもたちの実情なんかをよく把握されていると思っています。今までも不登校のお子さんに関わっていただいて、ふれあい教室に繋いでもらったというお話も聞いています。これからも、情報の共有や、子どもたちへの支援について、ご協力をいただきますよう、お願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。はい、どうぞ。</p>
教育委員	<p>総合教育センターについて、ちょっと一言申し上げます。総合教育センターは当初、教育研究所を設置しようということで、その準備委員会が発足して、その準備委員会の委員の中でも、教育研究所について積極的で肯定的な</p>

	<p>意見を言ってくれる人、否定的で消極的なご意見を持った人などの色々な意見が出ました。そんな中で、作るなら、作ってよかったというような、良いものを作っていこうというようなことで、委員の皆さんがいろいろと話し合いをされて、子どもたち一人ひとりを大切にする教育を目指して、先進的で総合的な取組を進める教育の中核機関として、名前も総合教育センターということで設置をしたわけです。まだ、設置されてから年数も浅いのですが、相談業務を始めとして、不登校児童生徒への対応や情報教育の推進など、専門性が求められる業務に幅広く取り組んでおり、時代に対応した教育を進めていくためには、重要な施設だと思います。</p> <p>今回の志摩市いじめ問題再調査委員会の報告書における6つの提言に対しても、総合教育センターは大きな役割を担っているというふうに認識をしております。子どもたちが夢や希望を持って自分らしく成長していくためにも、センターの取組を今後においても充実させるとともに、教育委員会と学校とが連携を深めながら、課題解決に向けて実効性のある取組を進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>市長</p> <p>はい。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、私からも少し発言させていただきます。不登校対策ということで、委員から冒頭にお話をいただいた「不登校になった原因がわからない」というのは、まさにそうであると思います。本当に様々な原因があるでしょうし、原因を解消すれば、問題が解消するということでもないような気がしています。</p> <p>また、まさに委員からお話をいただいた「地域との連携」、むしろ「場所で見守る」という表現の方が正しいかもしれませんが、やはり180キロ平米の面積があるこの志摩市内において、その地域というのをどういうふうに見るか。一つ、場所という概念のもとで、その場所の方々が様々な連携して、子どもたちを見守っていくということが大変重要であるような気がしています。連携が取れるというのは、そのあたりは本当に行政体のスケールメリットだと思います。様々な団体の、様々な方々との連絡調整というのは、行政が一番得意とする部分であると思います。教育長にもお話したことがあります。志摩市という一つの団体として、志摩市の最先端の情報と、最先端の連絡調整機関であると思っていますので、そのあたりの行政体としてのスケールメリットをしっかりと活用して、課題解決に向けられればと思います。</p> <p>あと、カウンセリングの充実の関係ですが、これは先日も教育長と教育部長からカウンセリングがたくさん利用されているという話を聞きまし</p>
--	---

た。私は実はもう少し少ないのかなと思っていたんですが、すごくたくさんいらっしゃるということでした。先日、緊急事態宣言が明けて、私はその後に東京へ出張したのですが、その時にある方の奥様が60歳を超えてから大学院に通われて、スクールカウンセラーの免許を取って、今、カウンセリングの活動をしているというお話を聞きました。60歳を超えてから、週に5日、カウンセリングに行っているということでしたが、それでも「もっと来て欲しい、週6日にしてください」って言われるぐらいだそうです。やはり、都会・田舎関係なく、このカウンセリングの重要性はあるのかなというふうに感じています。この部分に関しては、少しでも回数を増やすとか、少しでも人員を増強するとか思いますが、どのあたりで調整できるかという部分も含めて、これ本当に必要だと思っていますので、しっかりと議論させていただければと思っています。あと、民生委員・児童委員さんとの関係の件も委員にお話いただきました。この部分に関しても、やはりその場所の方々として、民生委員の方々のお力も借りながら、支援の協力を願っていきたくと思っていますので、引き続きお力を貸しできればと思っています。

あと、最後に委員からお話いただいた総合教育センターの関係ですが、私も議員時代に豊岡市の総合教育センターを視察したことがあります。あそこはアメリカの大学のサテライト校が撤退されたので、その校舎を何かに有効活用できないかということで、ちょうど、様々な課題感があって、総合教育センターのような施設に変更されたというお話を聞いて、見させていただきましたが、今、まさに必要とされる施設になっているというのを実感しています。志摩市の総合教育センターは開設して3年目ですが、今改めて、必要性の検証というのをさせていただいて、取組の方法というよりは、ちょっとこういうと乱暴かもしれませんが、活用の方法をもう少し考えさせていただいて、今以上に有効活用できるような、そんな場所にできればなと思っています。引き続き、ご指導いただければ、しっかりと方向性を付けて、教育長と議論させていただきながら進めたいと思いますので、よろしくをお願いします。他はよろしいでしょうか。はい。どうぞ。

教育長

不登校対策は、再調査報告書の中の大きな柱として、6大提言がありましたが、それについては着々と、教育委員会では学校と連携しながら進めているところでもあります。各学校で2学期の初めに先生方にお話をする機会を取っていただき、プリントを通して、志摩市の先生に6つの取組を知らせたところです。各学校ではそれぞれ体制を作ってはおりますが、体制ができたらすぐ機能するわけでもありませんので、より恒常的な機能ができるように、教育委員会でも連携しながら、各校の機能を上げていきたいと考えてい

	<p>ます。それは、いじめ基本方針を毎年学校が見直す必要があるのと同じように、できてしまって終わりではありませんので、子どもたちの不登校のことに、本当に機能的に働くような組織にさらに高めていけるよう、課題感を持ちながら、現場と話をしているところです。再調査委員会の提言にあったように、「学校に戻ることが不登校のゴールではない」という、一つの提言をいただいております。先ほどから出ております、原因が何であるかというふうなところの論議にも繋がるんですけども、原因を解消して学校に戻せばそれで終わりなのかということだと思います。子どもたちはいろいろなストレスを持ちながら、毎日生活する中で、たまたま不登校という症状として出てくる子どももいれば、別な症状で出てくる子もいるわけです。学校に戻すことがゴールであれば、そこへ戻してそれで終わりですが、学校としては、子どもたち1人1人を、しっかり見ていかなければいけないわけですから、その子どもたちの将来を保障する、卒業した後も自分の力で生きていけるような力をつけるということを考えれば、その不登校の生徒に対する取組も変わってくると思います。学校に戻すことじゃなくて、その子にどんな力をつけたらいいのか。結果的に学校に戻ってこなかったとしても。去年の卒業生でも、卒業後、大半が高校を選びながら、進路を決めて、自分の道を歩んでおります。そういった保障をしていくことを考えれば、例えば学校に毎日出てきている子どもの中にも、もっと取り組まなければいけない部分が出てくるということに繋がると思います。不登校の事案を元に、すべての子どもたちを見ていくような、そんな取組に発展させていく必要があるというところで、学校と協議してやっているところでありますので、引き続き、不登校の話については、大事な柱として取り組んでいきたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。ありがとうございます。それでは、不登校対策の議題についてはこのあたりでよろしいでしょうか。ありがとうございました。</p> <p>ここまでのいじめ・不登校対策の議論を受けて、何かご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、最後に代表して教育長よりご発言をよろしく願いいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>今回、いじめそれから不登校対策についての色々な意見交換をさせていただきました。その中で、学校の支援もあれば、学校外のお力も借りるというのがあります。いじめも不登校も、子どもたちの何らかのストレスがそこに介在していることは確かですので、そういった関わりも、もちろん学校の先生方は、全力でそれに取り組んでもらわなければなりません、それだけ</p>

	<p>では足りない部分があり、そこで、カウンセラーや民生委員のお力を借りるという話が出てきております。その連携というようなところで、1つ見通しのある話として、先ほど委員からご発言のあったコミュニティスクールの取組について、鶯方小学校以外の学校でも、来年度からコミュニティスクールが発足していく予定で、今準備を進めてもらっています。そんな中で、委員候補の方から、1つの提案として、「例えば、阿児アリーナの1室を週に1回でも借りて、私達がその子どもたちの居場所をつくることもできないことはない」といったお話をいただいたりもしております。今まで、不登校の子どもたちは、教育機関みたいなところで何とかしなければいけないというふうな意識だけだった部分ありますが、地域の方々が集うところに行くということもあると思います。先ほど言いました、卒業後も自立していけるような力をつける機会になればというようなことは思っていますので、幅の広い取組というか、視点を変えた取組も含めて、進めていく必要があるということを改めて思います。今日いただいた意見も含めて、さらに、大事な教育の柱として、いじめ・不登校対策についてはこれからも取り組んで進めていきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>本日は皆様から貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。本日の会議内容を踏まえて、市として今後いじめ防止対策・不登校対策の推進をしっかりと行って参りたいと思います。今日のご発言の中で様々な課題感というか、様々な手法のご発言いただいたと思います。やはりいじめとか不登校という問題の傘の下には、根本的な教育のあり方というものがあるように、今日、大変、痛感をしました。ぜひ、その辺りも踏まえて、対策に必要な予算の部分については、市長部局がグリップしているということですので、しっかりと教育長と議論させていただいて、予算措置を行っていただければと思っております。引き続きご理解いただきたく、よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p> <p>それでは、事項書3のその他について、何かご発言ございますでしょうか。よろしいですか。それでは事務局から連絡事項はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局からは、特にございません。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。ありがとうございます。長時間にわたり大変ありがとうございました。本当に有意義な議論をさせていただきました。</p> <p>以上をもちまして閉会とさせていただきます。引き続き皆様のお力をお</p>

	貸しいただきたくお願いいたします。ありがとうございました。
--	-------------------------------